

ふる里の復興と生き物たち

宮古市山口にある黒森神社の神楽は、黒森山を行場とする修験山伏の集団によって伝承され、現在は宮古市や岩泉町の有志により受け継がれている、国の無形民俗文化財である。

黒森神楽は正月明けに、北廻り(宮古市～普代村)、南廻り(宮古市～大槌町)を1年交代で1～2ヶ月間巡業する。

黒森神楽の長編ドキュメンタリー映画「廻り神楽」の発表会が昨年12月20日に行われた。撮影はほぼ終了、来春完成、夏以降の上映予定。

伝統を受け継ぎ、震災後はいち早く活動を再開し、被災地を元気づけてきた黒森神楽の世界を、映画で記録し、広く伝えたいという。

製作は(株)ヴィジュアルフォークロア(東京都)。映画は大津波に生き抜いた神楽と海辺の人々の絆を描いたもので、毎年秋にふる里の川に帰ってくる鮭を中心に物語が展開する。

共同監督の一人とカメラマンの方が先日(2/3)我が家を訪れる。

図書館にあった写真集「サーモンランドの野鳥」、単行本「ミサゴ撮影記」で私を知ったという。10年前にNHKのカメラマンが同じようないきさつで訪れている、それ以来である。

聞くと今から2月末までに陸海空の野生動物を撮影したい、海ワシの情報を尋ねられた。

野生動物はなかなか出会うことはむずかしいと伝える、残り25日では、写真ならまだしも、動画では奇跡は起きないだろうと心中思う。

(HP、<https://motion-gallery.net/projects/mawarikagura>)

1時間後、カメラマンを助手席に乗せ2台で出発する。ある場所で速度を落とし、あの立木はオジロワシがよく止まることがある、二人で法面を見上げる、「いたー！」成鳥が一羽中州を見つめて止まっていた。

早速、カメラを準備するよう伝える。オジロにはすでに気づかれていると思うが、少しでも気配を少なくするため私と監督は道路端に留まる。

カメラマンの方に河川敷側から道路を隔てて狙うよう、一気に近づかないようアドバイスする。

結果、射程距離の位置まで近づけ、ビデオで飛び出しまで撮れた、ヤッター！あくまでプロリーグ以前の出来であろう。

翌日、オジロと出会った川に今シーズン初めてでかける。こんなことでもなければ最近を訪れていない。

8時半に到着する。対岸にダイサギ、アオサギ、マガモが集結していた。冬枯れのヨシで見通しが悪い、オジロの飛来に集中する。ハクチョウが少し下流で群れていた。水中に半身いれ採食している、周りでカワアイサがエサ獲りしていた。

1時間後、その一団が近づいてきたので撮影始める。ハクチョウはまとわりつくカワアイサやサギを時には威嚇する。①アオサギが水に浮かんで泳ぐのを見た、新発見だ！サギの狩りや飛翔など1時間で650枚ほど撮影する。

残念、オジロと出会いは無かった。撮影した内容はスライドショーで数回に分ける。第1回は2月25日。

